

大谷公園の再整備について

大類 智樹
中川 博夫（星が丘1丁目大谷石畳保存会）

1 活動の経緯と目的

宇都宮市の星が丘1丁目には誕生から80年余りになる大谷石畳の坂道（現：日本遺産「星が丘の坂道」）があります。この坂道は融雪剤の影響などにより激しく痛んでおり、当時は日本遺産の認定などもなく、一時期は全面アスファルト舗装が予定されていました。筆者たちは、この大谷石畳の継続を求め、宇都宮市に対し要望活動を行ってまいりました。その結果、唯一市内に残る、大谷石畳の公道の文化的価値が認められ、自然石の大谷石での完全復元が実現しました。当局との議論や様々な知恵をいただいた体験をもとに、当保存会は、石文化を未来に続ける活動を継続しております。

このほど、宇都宮市大谷町の大谷公園（平和観音前広場）について、全面新大谷石（大谷石骨材を使用したコンクリートブロック）による打ち替えの意向が示されました。この広場の持つ大谷石の空間の文化的価値、日本遺産大谷石文化の1丁目1番地としての意義などから、新大谷石による打ち替えを最小限にとどめる提案をまとめました。

2 大谷の現状と再整備について

宇都宮市では、都市再生整備計画事業（大谷地区）により、観光入込客数120万人に向けて、上質な観光地・大谷にふさわしいインフラの整備を進めており、市道632・635号線の整備や、旧大谷公会堂の移築と観光交流センター整備などを計画しております。既に市営大谷駐車場から大谷公園にかけての歩道については、大谷石自然石から新大谷石舗装への切替工事が、残念ながら完了しております。



新大谷石で舗装し直された歩道



公園内は従来の自然石が残る

「新大谷石」は大谷石自然石よりも耐久性に優れ、ミソも無く、表面の平滑さを長期間保てるため、高齢者や車いすユーザーにとってもアクセスしやすいものとなります。しかし、本来の大谷石の文化は、人々の生活に密着して、日々の経年変化による色や形の変化をめでて、愛しんできたものです。いわば県民性・市民性に通じる心がここに 있습니다。淡く崩れやすく人々が守る大谷石文化が、無機質なコンクリートに置き換えられてしまいます。大谷石文化の本質が変わる懸念があり、最小限にとどめるバランス案（下記）を提案しました。

宇都宮市からは、提案について十分に尊重して、城山地区連合自治会、関係者等と意見交換を行いながら進めるとの回答をいただきました。

3 参考：提案資料（一部抜粋）

大谷公園の再整備と周遊機能強化についての要望

- ・新大谷石を使用した大谷公園の再整備が進められており、既に市営駐車場側からのアクセス路については残念ながら全面新大谷石での舗装が完了している。
- ・大谷文化の一丁目一番地である大谷地区で、自然石の大谷石路面を失ってしまうことは大谷地区の観光振興や文化継承にとって大変な損失である。
⇒これから整備する広場部分については大谷石自然石の採用を希望する
- ・また、大谷地区の観光資源は半径約1kmの範囲に点在しているが、道路の幅員が狭く、歩道も未整備の区間が多いことから、車での移動となり観光による経済効果を最大限発揮できていない。
⇒公園の再整備に併せて周辺道路に大谷石の歩道を整備することを要望する（一部、県・市による歩道整備計画あり）



【宇都宮市への要望】 大谷公園再整備イメージ①



階段上（大谷寺側）については既存の配石デザインを活用し、放射状の歩道部分を新大谷石で整備する。（幅員1.8m）
それ以外の部分については大谷石自然石を使用する。

【宇都宮市への要望】 大谷公園再整備イメージ②



階段下（大谷駐車場側）のアプローチは既存デザインのうち、内側6本（幅員1.8m）を新大谷石とし、階段上側と幅員を統一する。
・大谷景観公園と同じく公園内に暖色系の照明を設置
・平和観音の下には投光器を設置し、夏季限定などでライトアップ（資料館なども夜間営業）

【宇都宮市への要望】 大谷公園再整備イメージ③



大谷寺側入り口の asphalt 部分についても大谷石自然石と新大谷石の複合舗装とする。

【宇都宮市への要望】 大谷公園再整備イメージ④



車椅子利用を考慮し、スロープはポールを撤去する。
スロープ部分については耐久性を考慮し新大谷石とする。

【宇都宮市への要望】 大谷公園再整備イメージ⑤



バリアフリーを考慮し、旧大谷石体験館側の採石跡を利用してエレベーターを設置し、平和観音の展望台を利用できるようにする。

参考資料：

2021. 3

市政研究 うつのみや第 17 号

まちづくり活動報告

「星が丘 1 丁目大谷石畳道路（星が丘の坂道）完全復元」（宇都宮市）

中川博夫・大類智樹